

(別紙)

様式第1号(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度 第3回美幌町まち・ひと・しごと創生推進委員会
開 催 日 時	令和元年11月27日(水) 14時30分 開会 16時30分 閉会
開 催 場 所	美幌町民会館 地域活動室
出 席 者 氏 名	【会議委員】 横山委員、山野寺委員、小寺委員、信太委員、鎌田委員、村田委員、 水島委員、井上委員
欠 席 者 氏 名	川上委員、青砥委員
事務局職員職氏名	小室総務部長、後藤政策主幹、中村政策担当主査、金子政策担当
議 題	1 委嘱状交付 2 副町長挨拶 3 会長、副会長互選 4 現行総合戦略の効果検証及び次期戦略策定に向けての意見交換について 5 その他
会議の公開又は 非公開の別	公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合)	—
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	2名
会 議 資 料 の 名 称	・美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要 ・まち・ひと・しごと総合戦略 基本目標・KPI
会議録の作成方針	☐ 録音テープを使用した全部記録
	☒ 録音テープを使用した要点記録
	☐ 要点記録

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
横山会長	次第 1 <u>開会</u> 司 会 小室総務部長 次第 2 <u>委嘱状交付</u> 次第 3 <u>副町長挨拶</u> 委員委嘱 高崎副町長 により実施 次第 4 <u>会長、副会長の互選</u> 委員互選により、会長に横山委員、副会長に水島委員で決定 次第 5 <u>現行総合戦略の効果検証及び次期戦略策定に向けての意見交換について</u> 資料に基づき事務局から内容説明後、産業・移住・子育て・教育等の 4 分野でそれぞれ委員との意見交換 【産業分野】 ・ 商工会議所としての地方創生への取組事例を紹介させていただく。 日本商工会議所の三村会頭の発言にも地方創生は、観光産業が主であるという発言もあり、農業協同組合、森林組合、観光物産協会、網走信金、町を含め、平成 29 年度から美幌町観光まちづくり協議会を設置し、主たる産業を観光とするため、各種事業に取り組んでいる。 本来、商工会議所は中小企業庁、経済産業省の補助金を活用しながら各種事業を進めるが、今回は農林水産省の補助金を 5 年間で約 5 千万円いただき、地方創生の理念に基づき、美幌町民が豊かになるまちづくりという形で事業推進している。 ・ 本町は農林業が貴重な地域資源であり、いかに商工会議所が付加価値をつけ、高い商品を開発、販売していくかということも事業展開している。 ・ 美幌療育病院ワークセンターぴぼろと連携し、農福連携を実施している。 ・ 美幌高校や北見市の地域食品技術加工センターなどと産学官によるクラスター事業として、商品開発、食育事業を行い、保育園児から食育事業を実施し、美幌にはこういう高校があり、住めばこんなにいいことがあるということを商品開発、食育を兼ねて、実施している。 ・ これらの取組により、美幌町で生まれ、現在も美幌で働いていただく方をできるだけ残して維持を図っていききたいと努めている。 ・ 本来業務として、数値目標にもある従業員数増加については、まず地元の中小企業をいかに存続させるかがネックであり、国の認定を受け、企業の経営戦略、事業承継、起業家支援対策などを実施している。今後も商工会議所として、農商工連携や地域資源を活用しながら観光振興を図り、域外の需要の獲得するため、地方創生に取り組んでいくため、皆さんのご協力を賜りたい。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
中村政策担当主査	総合戦略の中に食育という言葉がない。町ではまとまった取組はないが、例えば給食センターで農協から年に1度野菜等の提供により地場産品への理解の取組、土地改良区の田んぼの学校、農協青年部による食育事業など個別で実施はしているため、次期戦略に向けて検討しているところ。
山野寺委員	- 数値目標に農畜産物の販売額を掲げているとおり、基幹産業である農業の販売額、所得額増加を第一に取り組んでいる。 農業情勢も大きく変わっており、平成26年の実績販売額97億から昨年は128億、今年は農協の取扱いだけで132億を見込み、過去最高と予想している。 - 人口減少に伴い、農家戸数の減少、作付体系、農作業体系、消費動向も変化している。ここ5年間を見ても農家の方が作っている作物、作り方も大きく変化している。技術的な指導を農協が担い、今年は史上最高の取扱高の見込み。春先も強風が吹き、被害もあったなど、天候に左右されるところが多く、今年の結果も農協が指導した結果と100%と言えればよいが、天候に助けられた部分が実際のところ。どこかのタイミングで雨や風が吹いたときには、逆に史上最低にもなり得るところが農業の厳しい世界。それを少しでも回避するため、技術的指導を行っている。 - 事業として掲げられた新規就農者の確保、育成の取組は、これまでも成果を得られているし、今後必要であり、一緒に取組を進めたい。単独の取組では、役場の農政担当もあり、担当者とは随時打合せしながら、何が今必要か町と協議しながら進めており、新たにこうしたところが必要というのは持っていない。 - 会議の中では、産業全体を盛り上げることが重要であり、農業だけが盛り上がっても他産業が衰退すれば、町全体の活気が失われるので、産業間のみならず町の方とも協働した何かの取り組みは必要。 - 食育では美幌町作物であるジャガイモで、特産のサッシーという品種について、全国どこが産地かと聞かれた時に、美幌ですと言い切れる品種のジャガイモがあるが、あまり知らない。そこを知っていただく取り組みや美幌で人参、玉ねぎ、ジャガイモをたくさん作っており、美幌産であるというところは、直接農家がスーパーなどにおろしているものを目にするが、農協を通じて売っているものはなかなか見えにくいということもある。今時期では、国産アスパラは全国どこにも売っていないが、先週日曜日に美幌産のアスパラが並んでいた。外国産しかないのが今時期なので、そういったところを知っていただき、食べていただくなどの取組は、農協が主にやるべきだが、町民に知っていただく機会は増やすべきであるため、紹介含め会議で何か進めて行ければと考えている。
横山会長	ジャガイモのサッシーは、商工会議所で事務局を担っているびほろブランド認証協議会があり、今年サッシーを使ったコロッケがクレードルで新たに商品開発され、びほろブランドとして認証された。これを契機に美幌のジャガイモイコールサッシーとなるよう普及させていきたい。
中村政策担当主査	ふるさと納税も政策担当が担当しており、寄附者には3割以内で地場産品を返礼品として登録している。サッシーのコロッケは、今年クレードルから提案いただき、返礼品として登録している。ただし、ふるさと納税の返礼品は、町外者へのPRにはなっているが、町内者へのPRにはなっておらず、なかなか知れ渡っていないのが現状。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
小寺委員	・ 農業従事者では、親から子への経営を引き継ぐのが基本だが、町では、農業に携わっていない方にも農業研修していただき、経営継承する取り組みを行っている。絶対数では、農業戸数は減っている中、どう農業経営をしていくか、農協、町が一体となり取組を進めたい。 ・ 認証材の出荷額がゼロとなっているが、今年から基準が変わり、今まで殺鼠剤が例外的に使用可能だったものが、今年から禁止になった。殺鼠剤を使用できなければ、ネズミ被害が出るため、一般の山主が無理という事で認証林の取組から降りてしまっている方が多く、森林組合自体も降りている。 ・ 例外措置の申請は出しており、もう一度認められれば、数値もあがってくるが、現段階ではゼロとなっており、仕方がないのかなという気はしている。
中村政策担当主査	・ 目標値がF S Cという国際認証制度を活用し、付加価値をつけた出荷量としているため、現状では基準が厳しくなり、認証林として出荷できなくなったというのが背景にある。町経済部と森林組合で、今後どういう方向で動いていくかは、現在は協議中ということか。
小寺委員	・ 引き続き例外申請を出している。認められれば戻らと思うが、結論が出ていないため、このような状況になっている。
信太委員	・ 関係部分としてK P Iに掲載されているのが、きてらす利用者数、特産品開発数、入込客数である。 ・ 観光業は基本、外から人が来てほしいということで、直接人口増に繋がる産業ではないが、地域の魅力を発信し、その土地の人が長く住みたいこの町はいいところだと、間接的に人口減が食い止められる産業である。 ・ 平成 28 年に観光分野における町革新戦略ビジョンの策定、観光まちづくり協議会ができたことは、オール美幌の体制は出来上がったが、組織としてどう動いていくかは、会議所頼みになってしまっており、協会としてもどのように協力していくのかは今後の課題と考えている。 ・ 外から人を呼ぶためには、特産品開発は重要であり、今年度が 7 と見込んでおり、町の特産品開発助成に対して取り組む方が増え、大きく伸びた。平野さんのメープルシロップなど、新商品を協会としてバックアップできるような体制で取り組んでおり、ぼっぼ屋が一つの核となっている。入込客数は、今年度見込み 73 万人、かつては 130 万人の入込があった。美幌峠の入込客数が大きい、やはり日本、世界に誇る美幌峠、美幌という名前、冠のついた我が町の観光資源であること、町民に向け魅力発信実行委員会で、町商工観光グループ、商工会議所、物産館、地域が一体となり、町民に魅力を発信する試みも取り組んでいる。ただし、昨年の胆振東部地震、今年の韓国との政治摩擦などはインバウンド、内需に直接反映するため、引き続き美幌峠を町民に P R する方法を磨いていきたい。 ・ 昨日、今日と美幌中学校 2 年生の生徒を対象に美幌峠で校外学習を行った。教頭先生の発案で、昨年までの赴任先だった津別中学校で行われたものを、教頭が転勤され美幌で実施を検討し、津別峠のモデルをそのまま美幌峠で、津別峠で上野さんという雲海ツアーを実施している方の協力をいただき、美中生 30 人、3 クラスに対し、僕もガイドをさせていただいた。生徒は美幌峠をあまり知らないし、雲海を見たこともない、屈

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
中村政策担当主査	斜路湖の向こうには網走川があるとか、これから勉強していくことだが、身近な美幌の良い所、素晴らしいところをどうすれば教えられるかというのを痛感した。今回は美中生を対象に、今年度単発で実施したが、継続実施できる方法や北中生や小学生、高校生にもこうした地元学を育成目的もあるが、将来美幌に残る残らないにかかわらず、郷土愛を学んでいくことは、将来的にも人口減に繋がるのではというのが、やってみて感じたこと。 ・先般、倶知安でG 2 0の世界の観光大臣が集まり、今後の持続可能な産業は観光であると宣言され、国では来年の五輪に向け、インバウンド4000万人という大目標がある。観光が核になる産業になっていくことは分かっているが、この町でみんなが一体となり、外貨獲得していくかというのを考えて行きたいと考えているが、まずは地域の魅力を磨き、人口減を食い止めるというのが目標であり、この会議で発言できればいいと感じている。 ・戦略の4本柱は、まず産業の各分野で稼ぎ、雇用拡大し、人口減少を食い止めるというストーリーになっている。観光まちづくり協議会は、多様な主体で構成され、一体となって取り組んでおり、まさに観光で稼ぐというテーマになっている。9月に北海道知事が美幌町に来町された際にも、道内空港が一括民営化され、計画上は今の利用客数を倍増させることになっている。おそらく外国人観光客も含んだ計画であり、対応できる体制が地域に求められるとおっしゃられていた。従来の見るだけの観光、物産だけではなく、町に来ていただいた方にいかに滞在をしていただき、稼げるのがキーワードと思う。
村田委員	・今日の道新に釧路市で小型翻訳機ポケットを9カ所位設置するというのが出ていた。今後外国人に対応するため、役場、観光案内所や道の駅には、配置されていた方が良いのではないかな。今は色々な機械があるので、そういうものの設置も早めにした方が良いと新聞を見て思った。 ・最近、北見でハッカ栽培含め工大と共同で、5年間で800万の事業をやっている。この地域は、工大だけではなく、農大もあるので、農業分野など共同できる部分はあると思うので、連携事業も検討してはと思う。 ・どれくらいの外国人労働者が町にいるか把握しているかはわからないが、例えば美幌町を一同にPRする場を設け、国に帰った後に美幌は良い所であり、こういう見所があると周りに広がりが出るような取組も、地道ではあるが必要と思う。 ・副業について、最近は公務員、企業でも認める状況にあり、私も昔組合の関係で、農家に援農に行ったこともある。農家の方も秋になると忙しく、私も玉ねぎ農家に頼まれて手伝っているが、そういう時に役場職員や農協職員も土日くらいは農家へ行って副業してもいいのではないかな。最近はやれるようになってきているので、検討してもらえればと思う。
鎌田委員	・以前倶知安にいたときに事業に関わって、町長が誘致をかけたこともあり、学校教育の中でも、食と観光をキーワードにしている。大事な点は、まちづくりをするときに地元のリピーターを集める方法、地元外の人を集める方法、このプログラムを改革する必要があると思っていた。美幌峠については、赴任したときから気になっており、例えば倶知安では、和牛を飼育していたので、例えば極上のコーヒーと和牛を朝のモーニングで出すとか、市城島スイートという高級レストランでは、時間外にお

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
横山会長	客さんに全部見せるプログラムを作っており、食材を使いレストランに出すということ。たまたまシェフと関係があり、話を聞くと極端な差別化をやる必要があるのかなと感じる。 ・高校の授業でも話しながら、社会では今こんな動きがあるので、そういうところに着眼する。新たなことを取り入れるため、一番大事な地元を知る事が大事。地元を知らなければ新しい文化を取り入れることは難しい。生徒には色々なところに出て、見てもらうことが大事である思う。産業の総合化という意味では必要になる。 ・語学力について、過去に函館大野において、新幹線の駅が目の前で、今 5 か国語くらいの表示がトイレ等にされている。倶知安も北斗も、たまたま海外の方が多数おり、セブンなどで生徒がバイトをしていると自然に英語ができるようになる。倶知安では 500 人ほど英語をしゃべれるような人を作らなければならないが、ハードとソフトがあっていないのが実態。日本人が不足しており、海外から雇用していると。美幌町で何ができるかということを議論し、ソフトとハードを揃える事が大事である。 ・空港があり、ビューポイントを使いインとアウト両方を組み入れ、そこに必要なのが食べ物である。衣食住 3 つをセットに、どう組み入れるかと思っていた。 【移住分野】 ・一昨年、会議所会員に対しアンケート調査を行い、移住定住を受けたときに特に若い人が移住定住となると働き口の問題が出てくる。働き口として受け入れ可能かというアンケート調査を実施したところ、29 事業所が受け入れ可能という返事をいただいております、町にも受入先企業名を提出させていただいたところ。人を呼ぶときには、当然働き口がないと移住できないというのが実情なので、会議所としては、働き口を確保できるような仕組みづくりをさせていただいている。 ・オホーツク管内で商工会議所の協議会を組織しており、先般池袋サンシャインで北海道フェアを実施しており、昨年は物販で参加したが、今年は I ターン U ターン対策の一環として参加しブースを設けたところ、美幌に戻りたいという女性 1 名が来られた。1 週間後にその女性が東京から美幌に来られ、うちに寄り 2 9 の受入事業所リストを見せ、美幌に戻ってきたいという希望に対する活動を現状させていただいている。
水島委員	【子育て分野】 ・私も子育てし、上の子が高校 3 年生になるが、子供が手のかかるときに、実家がない所での子育てだったが、何かあったときに預けられる場所、自分が病院に行きたいときに一時的に預けられる場所や産婦人科がなかったが、救急車ですぐ対応してくれるよう登録をすれば、すぐ対応してくれる様な取組や、子供を産んで育てて行く期間の新たな支援としてオムツ用のごみ袋など、とても子育てしやすい町だと思っている。5 分くらい行けば子どもがスキーさせられたり、学校にはスケートリンクがあり冬のスポーツをさせたり、本当に子育てしやすい。 ・言いにくいですが、今子供が 15 と 18 で両方とも進学する時期となり、子どもが夢を叶えるため、うちの子は 2 人とも町外に出てしまう。それを考えると、15 くらいまでは育てやすい環境と思っているが、夢を叶えるとなった時、美幌町で夢を叶えられるかというと、選択肢が少ないのは、親として思ったところ。いろんな子ども、いろんな夢があるので、一概に選択肢を町で増やすのは難しいが、高校から先で進学を考えたときに

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
井上委員	子どもたちの話を聞くと、美幌高校で進学を希望する子がどれくらいいるかなと。美幌高校でいいってという選択肢に現状なっているところが、進学を迎え今気づけたことであり、危惧するところ。 美幌高校もいろいろ事情があると思うが、皆美幌高校が良い、町外から例えば特進クラスがあり、大学進学がすごくスムーズに行きますとか、授業数が多いが合格率は高いとか、子供たちが魅力を感じる高校であれば、北見や網走からも来てくれるのではないかと。または部活に特化した科があり、凄く強化して、町外から優秀な選手を呼び込むとか、いろんなやり方があるかなと思うが、いずれにせよ美幌高校がいいという選択肢になればいいなと思う。 ・子どもが15歳、13歳、7歳で3人とも男の子で、うちも受験生で町外に出る予定。次の大学のことを考えると、町外の高校という。スポーツなどで長けているものがあれば、美幌高校の選択肢もあるが、美幌は陸上もみんな一生懸命やって速いって思われている割には、美幌高校で陸上をという環境が整っていないのかなと。他の一生懸命やっているところと同じくらい走れる場所が、整っている環境が美幌にはあるのかなと。私自身きちんと把握していないが、美幌町にいたい来たい、親も美幌高校に行かせたいと思えるようなのを高校のみではなく、美幌高校がなくなったら大変だと思うので、町民も関わり一緒に少しでもたくさんの子が通うように考え、もっと身近な美幌高校になれば。勉強も特進クラスに行ったら進学できるし、スポーツも美幌高校は勝って頑張ってるから、企業も応援してお金も出してくれたりなどあったりすれば、また違った見方があるだろうし、全て高校に丸投げじゃなく、やっていけたらいいなと思う。 ・子育ての面では、小さなお子さんがいる家庭には、すごく充実したところが多い。私たちの時にはオムツのごみ袋はなく、若いお母さんたちにすごくいいと聞くし、きてらすなど子供を連れて気軽に遊びに行ける場所があるのも、町外から転勤してきた人とかでこういうのがあるのはいいと聞くが、たぶん最初から美幌にいて美幌しか知らなかったら、その良さがわからないままいるのかなっていうものもある。 私は主人の転勤で興部に3年間行ったが、美幌が住み良かったんだなと改めて感じた。町の大きさもコンパクトだけれども大体の生活環境が整っており、大きな買い物したいときにも北見にすぐ行けたり、観光も峠とかありながら、美幌を拠点として2、3時間で行ける所が多く、そういうのもヒントにできないかなと、滞在は美幌で、観光でも釧路や帯広の方に行ってみたり、短期移住者の方にも1回体験してもらえれば、良かったところをもっと町民含めてアピールしてもらい、町民ももっと良いと思うところをアピールできる場所があればいいのかなと思う。
後藤政策主幹	・先ほど示した医療費の分野や小学生まで行政でやっている事業など、子育て支援としての考え方として、こういうところが不足しているという点はいかがか。
水島委員	・どこまでが子育てという考えにもよるが、小学校までの支援でいえば十分と考える。少年団活動に対する補助、出産とか就学前の医療費など、小学校に上がるまでの子供たちは風邪をひいたり、入学後も怪我することが多いため、助成はとてもありがたい。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
後藤政策主幹	・課題認識としては、中学校に上がってからのの方が本町の課題としてはあるか。
井上委員	・医療費が中学校も出してもらえるようになりとても助かっているが、さらに高校生からすごくお金がかかるため、町で0.5割出している部分を更に高校生まで対象を広げ、充ててもらえないかと。一番お金のかかるのが高校に入ってからなので、小さなときにお金をため備えておくということと思うが。
水島委員	・子供が小さいとお母さんも働けないというのがあり、補助を手厚くしてくれているのかなと。ある程度大きくなると働けるでしょうという事なのかなと。そうすると世帯収入が増え、国の補助とかが受けられなくなるというのもあり、どこまで働いていいのかというのはある。
後藤政策主幹	・2期目の計画策定の中、現状の取組で抜け落ちている部分、十分満足されている部分を精査させていただいている。結果抜け落ちているところを課題とし、何ができるのか分析をしないと、満足度の高い美幌町になって行かない。限られた財源の中で実施するため、どこに重点を置くかというところを2期目の計画に反映できればと考えている。
横山会長	・医師確保対策について、2月に国保の産婦人科の先生が退職された後の確保はまだできていないか。先生が出産支援に該当する産婦人科の先生か、それ以外の婦人科の先生なのか。出産支援となると、医師は必要で、産むのは別として、前後のフォローは必要と思う。出産後の支援施設であるピアがなくなるという話もあるので、国保もいない、そういうところもないとなると、北見にすぐというのはなかなかないので、大変かと思う。
小室総務部長	・国保病院で婦人科の先生がいらっしゃり、諸般の事情で引き上げられてしまう。婦人科の先生で出産の対応はできるが、出産を扱う医師、病院であるために2人体制でなければ、何かあったときに困るので、1人で扱うというのは難しく、婦人科に特化することだったが、なかなか十分な患者を確保ができないというジレンマもあった。引き続き医師の確保はやって行くが、産婦人科の医者は厳しい現状。同じく小児科の先生も厳しく、今は田中先生がおり、当面はよいが子供たちを専門で診られる先生がいなくなった場合は、予防接種などにも影響が出るため、産婦人科も大切であるが、子供たちを診察できる先生をしっかりと確保できないと、子育て全般に影響が出てしまうため、力をいれてやっているところ。
村田委員	・厚生労働省が9月に再編統合の議論が必要な公的病院という事で、424カ所が示され、道内で54箇所。美幌は入っていなかったが、地方創生を進めている時にこのことを出すこと自体、地域の実態を知らない人が出したかどうかはわからないが、問題のあるやり方と思う。病院が町の中核施設であるという事は、当然わかっていると思うが、地域に病院がなくなってしまうような今回の発表もあり、町も北海道一体となり、町村会は要望書も出しているが、要望書ではなく、抗議文でも出すべきものではないかと思う。そういった中、地方の医師、医療従事者対策で人を

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
小室総務部長	集めることが、大変な状況になっているため、きちんと国に要望すべきであり、今回の発表に対して、町としてきちんと対応しないといけないと思う。美幌町も4人も一度に医者がいなくなることで、町民もかなり不安に思っているのではないかと。再編統合対象にはたまたま入らなかったが、個別に大変な状況になったという事含め、国に対してもきちんと対応してもらえるように美幌の姿勢を示すべきだと思う。 - 厚生労働省が示したものはかなり乱暴、唐突感があつたが、当然うちの平野町長も機会あるたびにきっちり声を届けている。上京した際に、関係省庁に顔を出し、地元代議士にもお願いしている。 - 国保病院は4人の先生のうち、1人は定年退職、他の先生もそれぞれ事情があり、親の介護、子供が受験を控えているなど事情がある。どうしても家族の近くに帰らなければならないという事があり、美幌のために残ってほしいが、今回は致し方ないとのことで、退職を認めた経過にある。来年の4月までに、常勤の医師を確保するために、例えば医師を紹介してくれる会社があるので、出向き、なんとかして欲しいと。美幌は空港から15分なので、全国から医者に来ていただける環境が整っている。週末は東京にすぐに帰れますよと。そういうメリットを最大限に活かし、医師確保にしっかり取り組んでいきたい。
鎌田委員	【教育分野など】 - 本校は普通科と農業科の複合科になっており、両方を活かすため、教育内容の改善をしながら、部活動のことなど、限られた人数で実施しているため、希望には答えられていない。特に部活動は、なかなかスムーズではなく苦勞をかけている。ただどの地域も学校教育全体で、これから進めるべきことは、幼少中高大の一貫した教育学習プログラムをつくり、子ども教育の連続性を図り地域に残るなど、あれもこれもというのは多分無理なので、国と都道府県の方針の中、こういう人材育成をするという観点をもって整理統合し、話を進めるという事が大事。少子化、北海道530万人の中で、広域的に高校を置き、幼小中高があるわけで、お互いにいろんなことを考えて行かなければならない。魅力を発信しながら、魅力のところに辿り着ける形を作ればよいが、なかなか難しい。私も今来ている子供らに少しでも自分の進路選択、実現に向け、3年間の中、町から支援をいただき、外部との連携や学校外での活動を少しでも増やし、取り組んでいるのが現状。 - 新しい取組として農業科で、2020オリンピックに向けて、本校と士別市が連携し、本校トマトがGAP認証を受けており、トマトをつかったハンバーガーを士別市が、台湾選手が来る地域であり、全国40チームの中の1地域という事で、うちがエントリーされている。 全国の農業高校と自治体がセットで、農業高校でGAPを取っていないとエントリーできないが、道内8校ある中、トマトを使い、本校男子生徒でそのハンバーガーをほぼ全部GAPの認証制度、士別産と連携で。士別も日甜があり、両方かけ合わせのたれをつくったりするなど、海外の方に少しでもおもてなしをする予定。十勝の士幌高校と釧路市、2つが道内ではエントリーしており、広くアピールしていこうと思う。答えにはならないが、少しでも新しい物を取り入れてやって行きたいと思う。
後藤政策主幹	農福連携は、産学官の取組に金融機関の金ははいっているか。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
横山会長	・ 網走信金が金融機関として関わっている。美幌高校は、町の対策協議会で、いろいろ検討させていただいているが、地元で就職したいという子供たちをどう対応していくかという部分含め、J Aと森林組合なども、今年採用していただいている。地元採用枠もあるし、企業がお金を出してという部分では、病院などの看護学校などに病院がお金を出して学校へ行き、卒業後は病院に入るという仕組みづくりが北見工大にはあるが、会議所として北見工業大学版ではないが、美幌高校に入るという前提で、就職は間違いなく美幌町に就職できると、そういう企業が支援できる方策はないかといういろいろ検討しているところ。美幌高校に入れば、町内就職 100%できるという何かしらそういうものをひとつ作り上げたい。
鎌田委員	・ 大学等の進学について、北見方面の高校も全国的に指定校枠というのがあり、約 2～3 人少子化なので、ほとんどの学校である。推薦枠は推薦の中で合否が出るが、指定校枠は学校としての枠となる。実態を知るため、管内全 40 校近くの中学校回り、一部から美幌高校に行くと、どこの大学に入れますというのを明示して欲しいと。指定校枠と推薦枠は、こちらとすると当たり前のように思っていたところ、保護者からはどこに入れるかということが聞きたいという事で、一覧にして中学校訪問時に配付してほしいという意見があった。明確にここの大学は 80 校ある中、推薦でそのうち指定校枠は 55 あるなどの話ができれば、北見に行かなくても、希望するところが美幌高校に指定校枠があるのであれば、近くの学校でもいいのではないかという意見もあったため、来年度から資料として出して行こうと思う。
横山会長	・ 時間も経過したため、話足りない部分など何かあれば、遠慮なく事務局に出していただきたい。それらをまとめて、最終的に委員さんに諮らせていただきたい。
中村政策担当主査	・ 今回いただいた意見を基に素案という形で次回示させていただきたい。町の予算の関係もあり、この会議を 2 月に開催させてい頂き、その後パブリックコメントという流れで、一般住民の方にも素案に対する意見をいただいたうえで、4 月から新しい計画の元、事業推進して行きたいと考えている。 （横山会長、水島副会長による閉会の挨拶）

了